

真字熱田本平家物語の

漢字に附けられた声点の価値

山 田 俊 雄

熱田本平家物語について、本誌上に屢々拙文を掲げて来たが、さらに続稿として、本稿では、その声点の状況を紹介しその面から、字のよみ方および清濁についての全般的な考察を行ひ、一異本における平家物語の用語の研究をもつて、一般的な課題への参考に資したいと思ふ。

既に拙稿でのべたことがあるやうに、真字熱田本平家物語は、平家物語の一つの顔、一つの姿態であつて、平家物語の全体を、一身に負つて代表しうる資格のあるものではない。おそらく、どの一異本をとつても、そのやうな役割を果しうるものはない、といふのが、平家物語の存在のしかたであらうから、今ここに改めて断りの言を弄することは不必要でもあらう。しかし方が一にも誤解が生ずることを恐れて、重ねて、述べて置く。「無実の罪(サイ)」について、かつて述べたやうに、熱田本平家の声点をふくめて、そのあらゆる様

相は、先づ第一には個別・特殊の相である、といふ基本原則をここに確認して、次に、それが、普通・一般であつたかどうかを考へつつ、そこで再度の確認をし、然るか、然らざるかの検証を経て、各項それぞれの価値を決すべきである。

以下記述的態度で、声点を含む事項をかゝげ、次に若干の考察を加へよう。

本誌第七号での拙稿(二十二頁下段以下)で、結論的には「比較的少数であり、且つ散見する程度の無秩序のものではあるが、荒唐無稽なものであるかどうか」との間ひは、「この真名熱田本の声点の中には、取つてもつて平家物語の読みに加ふべきものが全くないとはいへない」。少くとも「玉石が混着してゐるのであるまいかと、一度疑つて見るだけの価値がある」といふことに帰した。そこで、本稿は、その部分を、さらに詳しく実証するといふ目的をもつものであり、私

見では、大体その線から、多少進んで、尊重すべきものであるといふところまで到達したと考へる。

前述の如く、散見するものであり、体系的にははしく附けられてゐないといふ缺點がある。しかし逆説的には、少数のものに、故意につけられたものには、それが機械的な情性的な作業でなかつたであらうといふ点で、はつきりした意図をくむことができるのである。この点の解釈は、読者と筆者との間に、見解が分れるおそれがあるのであるが、事実を看てから、黒白が決することであらう。

声点の付けられた語・字を、安易で未整齊のまゝではあるが、出現する順にしたがつて示す。巻第一については、これが、本文が別系であると同時に、別筆であり、いはゆる補入本とみられるといふ意味で除外しておく。

語のよみ方といふ制約の中にある以上、声点のつけられた当該の字のみを示しても、現実的処理ではないから、便宜、必要な限りの語形として示すことにする。なほまた、熱田本平家物語の、コロタイプ複製本における丁数行数を記したが山田孝雄校訂本における用字の状況との、異同は他日の多少詳しい考証にゆづつた。

また、その声点の示すところと、一致する他の辞書類の記事との照合を、今回は省略したのは、筆者の時間的制約から来たもので、他日を期する。本来、参照がある項目については、熱田本平家における、不注意とか過失とかではないこと

が直ちにいはれると考へるのであるが、人名・地名もすべて出現順に、一般用語とともに混合してあるのは他意はない。

印刷の都合上、声点は、その場所を「平・上・去・入」で示し、一点か二点か、すなはち濁か濁かは、一・二の漢数字で示す。よみ方の全体を推定することは、不正確におちいる懼れがあるので、本来存するところの附訓のみは存し、私意でつけることをさけた。その要領は、たとへば次の如くである。

和(クハ)尚(上一) (おそらくクワシャウとよむべきであらう)

無罪ノ罪(去二) (罪は、ザイ)

生(去二)産 (シヤウサン?)

勝(去二)事(平二) (シヤウシ?)

ちなみに、本書の声点で示される濁音は、本濁か新濁かの区別が、符号にはつきり区別のある個所は殆んどない。

また、清濁のみを「ㄱ」によつて示したところがあるが、それもここにふくめてあげた。()の中に平上去入の区別なしで、たゞ二と注したのがそれで、即ち二は二点「ㄱ」または「ㅇ」のあることを示し、頭子音の濁音であるもの。

四声の体系は、本書の書写の痕跡が、かなり乱雑であるところから、点の位置だけを見ると、或は、六声のごとくうたがはれる節もある。四声の体系の面からみると、信憑性は一層の考究を要するのではないかと想像する。今は、清濁を中心に、論じてみる。

〔卷第三の中〕

公請ツ(平二)

廳ト(平一)使

度ト(平二)縁

金毘羅大將(上二)

三台(平一)

槐イ(去二)門

無実罪(去二)

和尚(上二)

讒臣(上二)

讒人(平二)臣イニ

井戸ト(上二)田タ

郡司(平二)

随人(上二)

正(平二)二位

先祖(上二)

大(去二)内(去二)

重職(去二)

勸修(平二)寺

文(上二)宣(上二)王(上二)

別(入二)業ギョウ

実(入二)定卿

諸大夫(上二)

一才3

一才4

二才8

三才7

五ウ3

五ウ3

五ウ6・七ウ5

六ウ8

八才3 (地に追加書入れ)

八才4

一二ウ6

一二ウ6

一四ウ2

一五才2・一五才9

一五才8・二三ウ4

二一ウ2

二五才4

二五ウ10

二七才9

三〇才9

三五才5

三五才6

藤(平一)蔵人

風俗(入二)

三个(上二)秘法

老母(上二)

天俗(入二)國

正(平二)一位

早(去二)離

待(去二)賢門院

行啓(去二)

御(平二)契

御身(上二)新瀧

等身(去二)

軍陣(去二)

亨(去二)禪

実専(去二)

増(去二)伽

在テ御坐(平二)

生(去二)産

典(平二)融頭

堂(平二)上(平二)

堂(平二)下(平二)

方士(平二)

勝(去二)事(平二)

三五才9

三六才10

三七ウ2

四五才3

四六ウ8

二才10

六才4

六ウ4

六ウ7

七才7

七ウ7

七ウ7

七ウ7

七ウ10

八才2

八才2

八才2

八才2

八才5

八才10

八ウ6

八ウ6

八ウ10

九才7

老者(平一) 新(去一)宰相 新三(上二)位 布(去一)衣 西八條ノ亭(去二) 覺誓成(去二) 是劍(去一) 頼豪(入二) 海内(去二) 右丞(平一)相(平二) 江ノ(去二)帥 大夫(上二)? 亡(去一)者 半日ノ客(入二) 乞(入二)句(去二)人 白(入二)月 兵革相(去二)續 薄地(平二) 後(去一)混(上二) 肝膽(上二) 颯(入二) 別(入二)業(入二) 劍(去二) 五十(入二)斤

九ウ 4
 一〇才 7
 一〇ウ 2
 一〇ウ 5
 一〇ウ 5
 一〇ウ 8
 一二才 4
 一二ウ 1
 一二ウ 8
 一三ウ 4
 一三才 1
 一四才 1
 一五才 7
 一六才 7
 一八才 10
 二〇ウ 10
 二二才 9
 二二ウ 8
 二二才 1
 二三才 2
 二三才 3
 二三ウ 4
 二四才 3
 二四才 5

五(平二)十斤 甘心(上二) 三台(平一) 有待(去二) 外(去二)相 陵遲(去二) 才(平一)藝(去二) 御外(去二)威 颯(去二) 引撰(平二) 伊王山(上二) 田(去二)代(上二) 五百町(上二) 田(去二)代(上二) 占(上二)文(去二) 傳(平二)奏(平二) 推占(平二) 一事(平二) 噉(平二)々 西八條ノ亭(去二) 〔執行(上二)〕 賢臣(去二) 闕(入二) 近臣(平二)

二四才 8
 二四才 9
 二四才 9
 二四ウ 8
 二五才 1
 二五才 2
 二五ウ 6
 二六才 4
 二六ウ 10
 二七ウ 4
 二八才 3
 二八才 4
 二八才 8
 二八才 8
 二八ウ 8
 二八ウ 3
 二八ウ 6
 二八ウ 8
 二八ウ 9
 二九ウ 3
 二九ウ 4
 二九ウ 10
 三〇才 4
 三〇ウ 4
 三一ウ 1

謀(去二)臣

三三才1

少人(去二)

三三ウ2

浮(平二)言(上二)

三一ウ2

人(去二)臣(平二)

三一ウ4

赤(入二)元(上二)

三三才6

從(平二)二位

三二ウ2

正(平二)二位

三二ウ5

御昇(平二)進(平二)

三二ウ6

大夫(上二)史(上二)

三二ウ8

長(平二)寬(平二)二年

三三才3

正(平二)位_{シテ}

三三才4

前(去二)中納言

三三才6

管絃ノ道(平二)

三三才8

御昇進(平二)

三三才8

村女(上二)

三三ウ6

漁(上二)人(上二)

三三ウ6

野(上二)叟(上二)

三三ウ6

胡(平二)巴(上二)

三三ウ7

琴(去二)

三三ウ7

梁_{リヤウ}塵(上二)

三三ウ7

自然(去二)

三三ウ8

風香調(上二)

三三ウ9

清(去二)明

三三ウ10

今生(上二)

三三ウ10

世俗(入二)

三三ウ10

文(去二)字

三四才1

狂(平二)言(平二)

三四才1

綺語(上二)

三四才1

按察(入二)

三四才3

皇太后(平二)宮大夫(上二)

三四才5

右京大夫(上二)

三四才6

右少(平二)將

三四才9

江(去二)ノ大夫(上二)

三四ウ5

江ノ大夫(上二)

三五才5

源大夫(平二)

三五才4

世間(去二)

三五ウ1

朝暮ノ儀(去二)

三五ウ6

侍(平二)中(上二)

三六才9

先(去二)表(上二)

三七才7

八條ノ亭(去二)

三七ウ3

繼(去二)躰

三八ウ4

聖主(平二)

三八ウ8

寬平(平二)

三八ウ10

大相(去二)國

三九才10

博(入二)讒

三九ウ6

意速(上二)

三九ウ8

行(平二)人

四〇ウ2

宮(去二)門

四〇ウ3

蠻(上二)夷

四〇ウ3

〔巻第四の中〕

信西(二)

一才4

左京大夫(上二)

一才5

皇居(上二)

一ウ8

鶏人(平二)

一ウ9

外(去二)祖父

二ウ1

唯(平二)三(去二)宮(平二)

(右旁に后)

二ウ2

院宮(上二)

二ウ3

朝覲(上二)

三ウ9

御参(上二)着(入二)

四ウ2

從(二)上(二)ノ五位

四ウ10

從(平二)下(平二)四品ホ

五才1

海上(上二)

六ウ4

養子(二)

六才10

正(平二)下ノ五位

六ウ1

從(平二)上(平二)

六ウ2

西八條ノ亭テイ(去一)

六ウ4

太政官(上二)

六ウ6

公文所(平二)躰テイ(上二)

六ウ7

矢嶋ノ先生(二)

八ウ6

岡田(二)ノ冠者ツカ

九才1

帶刀先(二)生カタテウキ

九才2

次(二)男

九才2

志田(二)ノ三郎

九才3

先生(二)

九才4

多田(二)

九才6

宿望(上二)

九才7

雲泥(二)

九才8

令旨(上二)

九ウ8

湛増(去二)

一〇才3

源大夫(上二)

一ウ2

六條佐ノ大夫(上二)

一ウ7

源大夫(上二)

一二ウ8

木ノ下(上二)

一五ウ5

陣外(上二)

一七才2

兼参(上二)

一七ウ4

先途(上二)

一七ウ4

無躰(平二)

一八ウ6

暴(去二)悪ガウ

一九才7

清涼山(上二)

二〇才9

王権(上二)

二〇才10

調達之(上二)

二一才2

史(去二)司シ

二一才5

昇殿(平二)

二一才7

准后(平二)

二一ウ5

其孫 彼甥オナ(去二)

二一ウ5

聖主(平二)

二一ウ9

膝(入一)行 二一ウ 10
 正税(平二) 二二才 1
 太政(平二)皇 二二才 3
 含臟(入二) 二二才 10
 鬱念(平二) 二二ウ 5
 一時(上一) 二二ウ 5
 進發(入二) 二二ウ 8
 牒(平一)ヌ 二二ウ 9
 荒大夫(上一) 二四ウ 3
 孟嘗(去二)君(上一) 二五才 6
 侍大(平二)將 二七才 3
 堂衆(去二) 二八才 1
 侍大(上一)將 二九才 5
 大胡(上一) 二九ウ 9
 深栖(去二) 二九ウ 10
 小野寺(上一)禪師 三〇才 1
 源大夫(上一) 三一ウ 4
 源大夫(上一) 三一ウ 9
 荒大夫(上一) 三三才 1
 助ノ大夫(上一) 三三才 4
 典(平一)菓頭 三三ウ 9
 先(去二)表(上一) 四一ウ 5
 〔卷第五の中〕
 御同(去二)輿 一才 6

原田ノ大夫(上一) 一ウ 6
 允恭(上一)天皇 三才 2
 大(去二)化元年 三才 6
 曩祖(上一) 四才 7
 人(二)臣 四ウ 3
 十二(上一)ノ通門 五ウ 2
 造内(去二)裏 五ウ 8
 上(上一)棟 六才 5
 名草(二ノ園点) 一才 9
 井上ノ皇后(平二) 一ウ 5
 金(去二)ノ砂 一四才 6
 殿(去二)ノ上 一四才 6
 阿房殿(上一) 一四才 9
 刑人(上一) 一四ウ 4
 琴(上一) 一五才 3
 謀(上一)臣 一五才 5
 七(入二)尺 一五才 6
 蒼(平二)天(上一) 一五ウ 2
 色迭(上一) 一五ウ 4
 上(去二)西門 一五ウ 10
 安(去二)平(上一) 一六才 5
 大(平二)眼 一六ウ 5
 大(去二)虚 一八ウ 1
 流轉(平一) 一八ウ 1

狂象(平二) 一八ウ 2
 跳(平二) 猿(去一) 一八ウ 2
 迷(去一) 一八ウ 3
 法(入一) 一八ウ 3
 轉(平一) 一八ウ 6
 千萬(平二) 軸(入二) 一八ウ 6
 因(去一) 一八ウ 8
 上品(平二) 一八ウ 10
 巖(上二) 泉(上二) 一九オ 2
 囂(去二) 塵(上二) 一九オ 3
 地(平二) 刑(平二) 一九オ 4
 按察(入二) 一九ウ 5
 風俗(入二) 一九ウ 5
 定(平二) 二〇ウ 4
 拷(去二) シチンケリ 二〇ウ 4
 大(去二) 赦 二一オ 2
 法(入二) 便(上二) 二一オ 7
 國家(上二) 二四オ 8
 敗(平二) 北(入二) 二四オ 9
 曩(平二) 祖(上二) 二四ウ 1
 外(去二) 都(上二) 二六オ 1
 階下(上二) 二六オ 2
 蹤跡(入二) 二六オ 4
 聖(去二) 代(平二) 二六ウ 3

一八ウ 2
 一八ウ 2
 一八ウ 3
 一八ウ 3
 一八ウ 6
 一八ウ 6
 一八ウ 8
 一八ウ 10
 一九オ 2
 一九オ 3
 一九オ 4
 一九ウ 5
 一九ウ 5
 二〇ウ 4
 二〇ウ 4
 二一オ 2
 二一オ 7
 二四オ 8
 二四オ 9
 二四ウ 1
 二六オ 1
 二六オ 2
 二六オ 4
 二六ウ 3

清書(上二) 二六ウ 5
 撰(入一) 政殿 二六ウ 5
 閑(去二) 坊(上二) 二七オ 2
 瑞(平二) 籬(上二) 二七オ 3
 明恩(去一) 二七オ 3
 醫術之驗(上二) 二七オ 6
 霧(平二) 露 二七オ 7
 微(上二) 陽 二七オ 10
 客(入一) 二七ウ 7
 院宮(上二) 二七ウ 8
 往詣(去一) 二七ウ 9
 漢武(上二) 二七ウ 10
 玄(上二) 應(平二) 二八オ 2
 侍大(上二) 將 二八オ 10
 申定(上二) 者 二九ウ 3
 勢、微定(平二) 二九ウ 6
 臆(入二) 三〇オ 10
 侍大(平二) 將(平二) 三一ウ 6
 民部卿忠文(上二) 三二オ 8
 忠文(上二) 三二ウ 1
 忠文(上二) 三二ウ 4
 右丞(平二) 相(上二) 三二ウ 5
 東河(上二) 三三オ 4
 太(去一) 内(去二) 三三オ 5

二六ウ 5
 二六ウ 5
 二七オ 2
 二七オ 3
 二七オ 3
 二七オ 6
 二七オ 7
 二七オ 10
 二七ウ 7
 二七ウ 8
 二七ウ 9
 二七ウ 10
 二八オ 2
 二八オ 10
 二九ウ 3
 二九ウ 6
 三〇オ 10
 三一ウ 6
 三二オ 8
 三二ウ 1
 三二ウ 4
 三二ウ 5
 三三オ 4
 三三オ 5

神(平一)服(入一) 三三才5
 神(去二)供(上三) 三三才5
 廻龍殿(上二) 三三才6
 太嘗宮(上二) 三三才7
 神(平一)膳(平二) 三三才7
 大(去一)礼(平一) 三三才8
 清暑(上三)堂(上三) 三三才8
 新嘗(上三)會(上二) 三三才1
 供(上三)奉(平二) 三四才1
 神木(入二) 三四才7
 外(去二)祖 三五才3
 次郎大夫(上二) 三六才9
 尋(去二)常(上三) 三六才9
 累(平一)代(平一) 三六才7
 半(去二)天(上二) 三七才3
 中天(上二) 三七才6
 等身(去二) 三七才10
 〔卷第六の中〕
 焼(去二)失 一才5
 公請(平二) 一才9
 已講(平二) 一ウ10
 上(去二)皇 二才5
 詩書(上二) 二才6
 行(入二)術(入二) 二才8

三三才5
 三三才5
 三三才6
 三三才7
 三三才7
 三三才8
 三三才8
 三三才1
 三四才1
 三四才7
 三五才3
 三六才9
 三六才9
 三六才7
 三七才3
 三七才6
 三七才10
 一才5
 一才9
 一ウ10
 二才5
 二才6
 二才8

仁徳(入二)行(去二) 二ウ9
 紅(平一)葉 三才1
 北陣(去二) 三才1
 落(入二)葉 三才4
 雞(平一)人(平二) 三ウ4
 供(平二)奉(平二) 三ウ7
 一日(入二) 五才9
 貞(平一)仁(平二)機(上二) 五才10
 元觀(平二)殿(上二) 五才10
 宮中(上二)一、 五ウ4
 琴(去二) 五ウ4
 參内(去二) 六ウ5
 漢(入二)河(上二) 九ウ9
 祖(上二)父(上三) 一才8
 多胡(上二) 一ウ3
 源大夫(上二) 一才7
 蜂(上二)起 一三ウ5
 先表(上二) 一三ウ5
 老(平二)死(二) 一五ウ6
 堂(上二)上 一五ウ8
 堂(上二)下(平二) 一五ウ8
 一時(上二) 一六才4
 暖(入二) 一六ウ6
 叡山(上二) 一七ウ2

固辭イオセ（ヒに上二）
 外ソト（去二）塙ノボ
 花族（入二）
 同（去二）日（入二）
 法ホウ（入一）性寺殿
 寛平（平二）
 法ホウ（入一）性寺殿
 女（上二）英
 瑟（入一）
 橘相ツキ（平一）公
 文ヒ（去二）才（上二）
 檣ヒ（上二）根ネノ車
 正（平二）二位
 新比ニヒ（上二）叡
 南内ナンノウ（去二）
 大（平二）赦
 長（平二）觀（平一）？
 官（去二）ノ廳
 被岸所（平二）
 昇ノボ（上二）星（上二）
 從シヨク（平二）一位
 〔卷第七の中〕
 侍大（平二）將

一八才5
 一八ウ6
 二二才3
 二二才10
 二二ウ8
 二三才6
 二三ウ5
 二四才4
 二四才7
 二四才8
 二四才8
 二四才9
 二四ウ3
 二四ウ3
 二四ウ5
 二四ウ8
 二五才4
 二七才9
 二七ウ3
 二七ウ3
 二七ウ10
 二八才6
 二八ウ5
 三〇ウ8
 二才8

上総大夫（上二）
 飛彈大夫（上二）
 正マサ（平二）税サイ
 三ミツ（去二）河尻
 藤兵フジノヒコ（去二）衛
 鶯舌ウソヅ（入二）
 方士ホウシ（平一）
 石上イシノカミ（去二）
 侍大（平二）將
 侍大（平二）將
 旗ノボリ（上二）裘ホ（平二）
 旗（上二）兵
 上総大夫（上二）
 多田（二）
 不比等（平一）
 頭カウ（上二）墓
 人ヒト（去二）臣
 令旨ノリノサシ（上二）
 同（上二）類
 長（平二）河（上二）
 劍ツルギ（去二）
 瑕ヒラ（上二）瑾キム（上二）
 累代（平二）
 武（上二）備ヒ（上二）

二才9
 二才9
 二ウ6
 二ウ6
 三才1
 三才5
 三才8
 三ウ8
 三ウ8
 五ウ3
 五ウ3
 五ウ5
 八才5
 八才7
 一〇ウ3
 一一ウ4
 一六ウ1
 一七才8
 一八才6
 一九ウ5
 二〇才1
 二〇才1
 一九ウ10
 二〇才3
 三一才1
 二二才4
 二二才4
 二二才4

武(上二)切 二二才8
 海内(去二) 二二才9
 瑜伽(平二) 二二ウ7
 奸(去二)謀(上二) 二二ウ3
 星謀(上二) 二二ウ8
 電(平二)戟 二二ウ8
 反逆(入二) 二二ウ10
 從(平二)三(上二)位 二四ウ4
 正(平二)三(上二)位 二四ウ6
 正三位行(平二) 二四ウ8
 正(平二)三位 二五才2
 皇太后宮(去二)大夫(上二) 二五才2
 征夷大(平二)將軍(上二) 二五才5
 從(平二)二位 二五才6
 正(平二)二位 二五才8
 人望(上二) 二五ウ8
 淀路(二) 二六ウ7
 矢田(上二)判官 二六ウ8
 玄上(平二) 二七ウ1
 漢天(去二) 二七ウ6
 嵐聲(去二) 三一ウ2
 槐(平二)棘(入二) 三一ウ3
 緑(入二)衣(上二) 三五ウ7
 藏人大夫(上二) 三八才10

成盛大夫(上二) 三八才10
 半(去二)天(上二) 四二才4
 [卷第八の中]
 京(平二) 一ウ1
 當(上二)殿 一ウ4
 堂下(平二) 一ウ8
 一族(入二) 二ウ2
 大膳大夫(上二) 二ウ3
 南殿(平二) 二ウ5
 主上(平二) 二ウ5
 外(去二)戚 二ウ5
 三種(平二)神(去二)器(上二) 二ウ7
 御母(上二)儀 三才9
 皇子(平二) 三ウ3
 正(平二)三(上二)位 四ウ1
 除目(入二) 四ウ2
 三種(平二)神(去二)器(上二) 四ウ9
 大津(上二)山/関 五才3
 九国(入二) 五才4
 ニノ王(去二) 五ウ2
 文徳(入二)天皇 五ウ3
 財(入二)領 五ウ5
 安危(平二) 五ウ6
 烈(入二)シテ 五ウ9

守(平二)文(平二) 五ウ9
 萬(去二)機 五ウ10
 信濟(去二) 六才1
 外(去二)祖 六才3
 忠仁(去二)公 六才3
 万(去二)人 六才6
 競馬(平二) 六才6
 行啓(去二) 六才8
 勝(上二)事(平二) 六才10
 太(去二)内(去二) 六ウ2
 相撲、節(入二) 六ウ6
 御(平二)夢想 六ウ8
 大(平二)ノ男 七才2
 御母(上二)儀 七才3
 主(平二) 七ウ2
 還(去二)俗(入二) 七ウ5
 先蹤(平二) 七ウ6
 主(平二) 七ウ10
 蹤(去二)跡(入二) 八才3
 宇佐宮(上二) 八才8
 九重(平二) 九才1
 皇后(上二)宮(平二) 九才8
 刑(平二)部 九ウ1
 大(平二)太(平二)夫(上二) 一〇ウ1

太(平二)大夫 一〇ウ3
 大(平二)太(平二) 一〇ウ3
 輝大(平二)太 一〇ウ4
 御定(平二) 一一才7
 源大夫(上二) 一一ウ7
 造(去二)花 一二才3
 兵藤(平二) 一二ウ4
 刑部大(平二)夫(上二) 一三才3
 龍頭(平二) 一三才8
 外(去二)都 一三ウ3
 望(去二)郷 一三ウ3
 武(上二)勇 一三ウ9
 平太(平二)郎 一四才4
 酒(上二) 一四ウ7
 濟院、次(平二)官 一四ウ7
 工藤(平二) 一四ウ8
 十(入二)重 一四ウ9
 布(去二)衣 一五才6
 名符(上二) 一五ウ2
 史ノ大(平二)夫(上二) 一五ウ3
 名符(上二) 一五ウ4
 三種(平二)シテ 一六ウ3
 捕食(入二) 一六ウ4
 小野太(平二) 一六ウ2

様(平一?) 一七才9
 矢田(上二) 一七ウ5
 侍大(上二)將 一八才8
 矢田(平二) 一八才9
 優(上二) = 一八ウ8
 子(上二)荊^ワ 一八ウ8
 伏(入二)龍寺 二〇才3
 四方(去二) 二一ウ6
 侍大(平二)將 二二ウ8
 平内左(平二)衛門 二三才4
 紀七左(平二)衛門 二三ウ6
 山僧(去二) 二六ウ5
 明(去二)經(上二)道 二六ウ9
 清大(平二)外記 二六ウ9
 御(平二)童(上二)形 三〇ウ1
 卿(上二)相 三〇ウ4
 大郡司(上二) 三〇ウ10
 藤内左(上二)衛門 三一才1
 高(去二)貴(上二)僧(上二)? 三一才7
 三種(平二)神(去二)器(上二) 三一ウ5
 解(平二)官 三二ウ10
 紱(平二)位 三二才7
 〔卷第九の中〕
 四方拜(平二) 一才6

下津(平二)井 一六才3
 京(平二) 一六才7
 沼(上二)田次郎 一六ウ6
 京(平二) 一八才2
 正(平二)二位 一九才4
 四郎大夫(上二) 二〇ウ6
 小野寺(平二) 二〇ウ6
 勝(平二)大八郎 二〇ウ9
 侍大(平二)將 二一才6
 同日(入二) 二一ウ8
 同時(上二) 二一ウ8
 藏人大夫(上二) 四〇ウ3
 藏人大夫(上二) 四三才9
 修理大夫(上二) 四三ウ1
 上(去二)西(去二)門院 四六ウ4
 兩夫(上二) 四七ウ3
 藏人大夫(上二) 四七ウ5
 〔卷第十の中〕
 大夫(上二)判官 一才9
 威(入二?)里^{セキ} 一ウ5
 父(平二)祖(上二)? 一ウ9
 内(去二)府 四ウ3
 一人(上二) 七ウ8
 三種之神器(平二) 七ウ7

亡(去二)國 七ウ 10
 九重(平一) 八オ 4
 大膳大夫(上二) 八オ 7
 成^{シテ}群(去二) 一〇オ 7
 母(上二)后^コ 一〇オ 8
 外(去二)戚^{セキ}(入二) 一〇オ 9
 近(去一)臣(平一) 一〇オ 9
 躰^イ外(去二) 一〇ウ 3
 曩祖(上二) 一〇ウ 9
 平(平一)將軍 一〇ウ 3
 謀(去二)臣 一〇ウ 5
 亡(上二)夫(上二、新濁) 一〇ウ 6
 時(上二)儀 一〇オ 3
 損(上二)滅 一〇オ 4
 小(平一)瑕(上二) 一一オ 6
 亡(上二)父(上二) 一一オ 7
 頓首(平一?) 一一ウ 3
 二十八(入二)日 一一ウ 5
 上(去一)人 一二オ 9
 有無(上二) 一三ウ 4
 御外(去二)戚 一六ウ 9
 昇進(平二) 一六ウ 10
 股(平一)紂^{チウ}(平一) 一七オ 6
 二十(入二) 一七ウ 6

引撰^{ヒキス}(入二) 一八ウ 8
 騷^{スイ}(上二) 一九オ 9
 橘(入二)相公 一九ウ 3
 訶人(平二) 二〇オ 1
 斎藤左衛門大夫(上二) 二〇ウ 8
 鬚^{マユ}(去二) 二二オ 8
 松(平一)子 三〇オ 2
 若^ニ不生者(平二) 三一オ 3
 正(平一)下^ヒ位 三二ウ 5
 從(去二)下(平二)五位 三二ウ 5
 阿波民部大夫(上二) 三六オ 4
 即(入二)夫(上二)ノ宣旨 三六ウ 1
 八(去一?)田^タ(上二) 三七ウ 7
 大胡(上二) 三七オ 7
 九郎大夫(上二)判官 三九オ 9
 商客(入二) 三九オ 10
 御禊^{ミソギ}(上二) 三九ウ 2
 節^{ヒツ}(入二)下(平二) 三九ウ 4
 〔卷第十一の中〕
 同日(入二) 二オ 3
 兩所(平二) 三オ 8
 江(平二)内 三ウ 4
 京(平一) 五ウ 4

人(平二)訴コト
 九郎大夫(上一)
 第三神(去二)殿(上一)
 九族(入一)
 原田大夫(上一)
 官女(平二)
 朱買臣(平二)
 太政官(上一)廳
 草薙劍(去一)
 十寸劍(去二)
 靈劍(上一)
 此劍(去一)
 一ッ殿(上一)
 伊曾(去一)
 天村雲劍(去一)
 靈劍(去一)
 靈劍(去一)
 天ノ群雲ノ劍(去一)
 草薙劍(去一)
 草薙ノ劍(去一)
 帝(去一)
 庵(上一)從(平二)
 從(平二)二位
 太政官(上一)廳

五ウ6
 一五才10
 一六ウ5
 二三ウ8
 二七才9
 二七ウ3
 二七ウ5
 二九才3
 二九才7
 三〇才3
 三〇才4
 三〇才7
 三〇才8
 三〇才9
 三〇ウ2
 三〇ウ7
 三〇ウ9
 三一才1
 三一才1
 三一才5
 三二才1
 三三ウ9
 三四ウ2
 三四ウ4

三箇カ(上一)夜ヨ
 小(平二)家カ
 中ノ邊ヘ(平二)
 如(上一)官
 太政官(上一)
 服(入二)仕
 高聞(上一)
 京(平二)
 深(去二)禪定
 一時(上一)
 東夫(上一)
 西母(上一)
 杜(平二)陵(平二)
 藏人大夫(上一)
 姉ノ大夫(上一)三(上一)位
 粉津(上一)
 命(去一)
 〔卷第十二の中〕
 正(平二)二位
 武(上一)勇ヨウ
 兼官(上一)
 繻張(上一)頭巾
 昇進(平二)
 工(上一)藤(平二)三(上一)
 三四ウ5
 三四ウ6
 三五ウ3
 三五ウ5
 三六才2
 四二才10
 四三才4
 四三ウ8
 四五才3
 四五才5
 四五才6
 四五才6
 四五才7
 四七ウ6
 四八才1
 五〇才6
 五一才1
 三才6
 三才7
 四才4
 七ウ3
 一〇ウ7
 一八才1

他人 (上二)	一八才 4
秦 (去二) 四寄	二〇才 8
大 (去二) 源 (平二)	二〇ウ 8
伊賀大夫 (上二)	二七才 1
伊賀大夫 (上二)	二七ウ 7
伊賀大夫 (上二)	二八才 4
朝倉大夫 (上二)	二八ウ 4
朝倉大夫 (上二)	二八ウ 7
朝倉大夫 (上二)	二八ウ 10
颯 (入二) ト	三〇才 3
安藤 (平二) 判官	
〔灌頂卷の中〕	
信夫 (去一)	三一才 4
東山 (上二)	三一才 9
后妃 (上二)	三一ウ 7
土陽人 (上二)	三二才 7
長 (平一) 時 (上二)	三四才 1
有涯 (去二)	三四ウ 1
故 (ヒの下に二)	三五ウ 4
笙歌 (平二)	三七ウ 1
中間 (上二) 禪 (去二)	三八ウ 3

以上が、本稿の調査の結果としての、声点の全貌である。読者にもすでに観察されたところと思ふが、漢字音のもので外にもつけられてゐる。それは主として清濁に関するもので

アクセントの表示の役割を有してはゐない。即ち、

井戸田 (井ドタ)	
颯 (ハット)	
意速 (ココロドウモ)	
岡田 (ヲカダ)	
志田 (シダ)	
調達之 (調達ガ)	
大胡 (オホゴ)	
深栖 (フカズ)	
小野寺 (ヲノデラ)	
名草 (ナンガ?)	
忠文 (タダブン)	
漢河 (アマノカハ)	
多胡 (オホゴ)	
固辞 (イナビ)	
多田 (タダ)	
不比等 (フヒト)	
淀路 (ヨドヂ)	
矢田 (ヤダ)	
大津 (オホヅ)	
小野太 (コヤタ)	
沼田 (ヌタ?)	
伊曾 (イソ)	

中ノ邊 (ナカノベ)

粉津 (コツ)

信夫 (シノフ)

故 (ユエビ)

これらの中には「シノフ」のやうに、直ちに首肯することのできない例もふくまれてゐるし、「ナンガ」のごときはおそらく、同国の「那賀郡」と考へて、ナンガとしたものらしくこれも従ふことができないかと思はれる。(なほ、シノフの字については「御母儀」の「ゴボンギ」などととも別有機会にのべるつもり)。「アマノカハ」をアマノガハとしないで、カハを清んでよむべきことを注したのは常識とちがふところであるが、無下にしりぞけるべき理由はない。清濁いづれかに迷ふやうな、語句のその部分にのみ注するといふ態度は、決して、網羅的とはいへないけれども組織的でないとか、気をつけたものでないとか、評すべきではない。

元来、本書には、さまざまの頽廢した本文があつて、全体を直ちに信用すべきものでないことは、本書を資料として評価する場合、十分戒心すべきところであるけれども、逆に國語の音韻史の資料として、それ相当の価値あるものであらうことは、種々の点からいひうるものである。

かつて、橋本進吉博士が、シヨーシ(笑止)といふ語について「勝事」を問題としたことがあつたが、本書では、正しくそれが裏書される。また、従来、孤立してゐた例が、本書によつて支持されて、その信憑性を増加することが少くない。

卷五37(オ3)・卷七(42オ4)に「半天」を、バンテン

もしくはバツテンとするのがある。半をバン・バツと濁るのは、一見すると信じがたいやうであるが、教順本和漢朗詠集には、「菊」の題の下に見える

露菊新花一半黄

の「一半」に「イツバン」と明かに仮名を附してあつて、これが、イツパンとよむべきものの、臨時的な、便宜的な不正確な表記法ではなからうといふことが裏書きされるのである。

「陵遲」の「遲」を濁ることが、卷三(25オ2)に見えてゐるのは、前田家本色葉字類抄によつて裏書きされる。このやうな類が、ふくまれてゐることは、今日の我々の目に、一見異様に見えても、実は、やはり國語史上の事実をつたへたものとして、少くとも、尊重して、批判しなければならぬことを物語る。既述の拙稿で不審をなした条項に属する「玄上」の「玄」の清音によむごときは、決してあやしいことでない。

「梁塵」を卷三(33ウ7)で、リヤウチンと、塵をすんでよむ注をしてゐる。これも四声の位置はちがふけれども、前引、色葉字類抄の記事と一致するところであつて、これらの現象を、多く見出しうるとなると、一方の色葉字類抄の、字音の声点も、従来、さして多くの論もなかつたことではあるが、今後、次々と信憑度を高めてゆくことが予想される。

本稿は、元来、熱田本平家物語の國語史上の価値を、声点の状況を一例として、再認識しようとするものであるが、ここに、他方の色葉字類抄などの声点の意味の解明もなしうる。

のではあるまいか、また、色葉字類抄の声点の資料的価値を、確実なものとする一つの端緒を示しうるのではないかと思ふ。勿論、このやうな方法論は、決して、めあたらしいものではないからう、しかし、煩を厭つて、省略してゐると、いつの日になつても、事態は改善されずに停滞したまゝで終つ

てしまふ。決して目新しい方法ではないけれども、多少の光を見出す努力として、多くの人々の協力を得て、今後の進展をこひねがふものである。

なほ、本小稿続篇には、他の平家物語のテキスト、および古辞書との対照による多少の考証を用意してゐる。